

2022年春闘 改善分の回答 過去最高

製造業の回復基調が結果を後押し

7月8日現在、69の交渉単位の内、65単組が賃上げに取り組み、61単組で妥結・決定に至っている。
(以降カッコ内は昨年最終との比較)

妥結の内訳として31単組では、賃金構造維持分に加えて、改善分の回答があった。一方、取り組みの段階で3単組が要求を断念している。

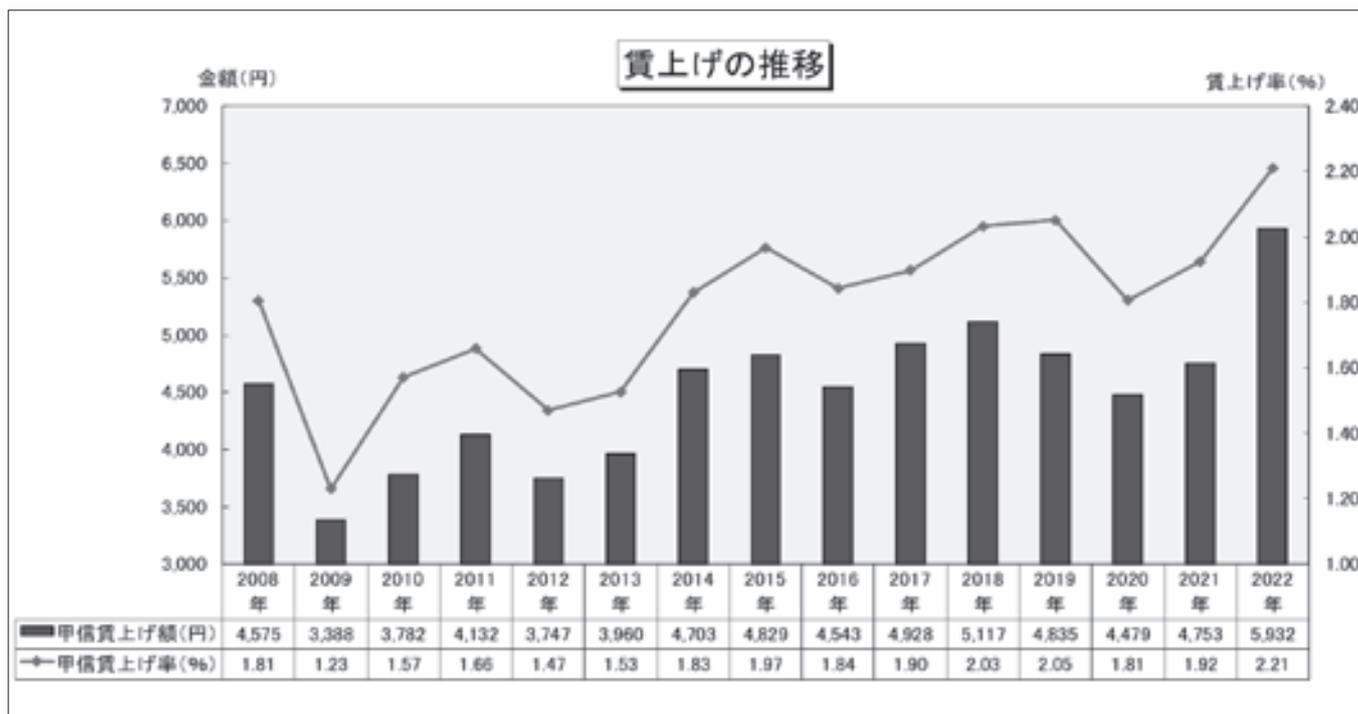
回答・妥結の平均額は5,932円(+1,179円)であり、また改善分は2,529円(+977円)と、昨年最終実績を大きく上回る結果となっている。新型コロナウイルスや国際情勢の影響により、原油や材料費の

一時金交渉は今後の状況に注視

高騰などもあるが、コロナ禍での製造業の回復基調や人手不足も、結果を後押しした。特に改善分が過去最高水準である要因は、多くの単組では人材流出防止の点で会社側の理解も得られ、反映された結果となった。

また夏季一時金では、妥結・決定に至っているのは46単組であり、これから回答を迎える単組・支部も残る。平均妥結額について現時点では昨年を大きく上回る結果となっているものの、今後の状況についても注視していく必要がある。

交渉単位数 69単組	賃上げ			一時金		
	額/円	率/%	妥結単組数	妥結月数	平均額/円	妥結単組数
実績	5,932	2.21	61	2.13	662,857	46
昨年最終	4,753	1.92		1.84	542,288	
比較	1,179	0.28		0.29	120,569	



****おしらせ****
2022年・労働条件調査・賃金全数調査を展開します。全単組・支部のご協力をお願いします！

JAM甲信は、新型コロナウイルスの感染状況を考慮し、従来の対面開催から初めてZoomを利用したWeb開催にて、4月9日（土）に「男女参画セミナー」を開催し、女性23名を含む28単組93名が参加した。

今回の男女参画セミナーは、大妻女子大学人間関係学部准教授の田中俊之氏を講師に招き、「男性学の視点から、多様な生き方・働き方を考えよう！」と題し講演を頂いた。

田中氏は「男女平等参画社会の実現が叫ばれる

現状で、男性も当事者意識をもって、アンコンシャスバイアス（無意識の思い込み・偏見）を克服することが重要だ」と説いた。

参加者からは「男性学の視点の話は初めて聴き女性と男性の違いが認識できた」、「男性は強くなければならないし、悩みを話しづらいという思い込みもあったが、その意識を個人レベルで変えることの大切さを学んだ」などの感想があり、時代と共に変化する働き方や、意識を変革する必要性について学ぶセミナーとなった。



男性学の視点の重要性を説く田中講師



Webにて参加する皆さん

JAM甲信は、6月10日（金）に岡谷市のライフプラザマリオを主会場に「第14回安全衛生交流集会」を開催し、対面とWebの併用にて28単組・支部の39名が参加した。例年は工場見学とグループディスカッションを実施する1泊2日の研修としているが、今年度も新型コロナウイルスの感染状況を考慮し、講演会のみで切り替えた。また今年度は使用者側にも声掛けをしたところ、4社6名の方にWebにて参加を頂いた。

講師に(株)コミュニケーションズ・アイの高橋知也氏を招き、「それってハラスメント？～パワハラ防止のポイントと対策～」と題して講演を頂いた。

高橋氏は、「ハラスメント防止のためには、加害者への指導と共に、被害者になる可能性のある人への教育が大事である」「パワハラを防止するために信頼関係を構築するコミュニケーションスキルを養うことが大事である」と説いた。

参加者からは「部下に対する指導のつもりがパワハラになるケースを学び、参考になった」「事例紹介を通して理解が進んだ」「ハラスメントは増加すると思うので、良い研修の機会となった」などの感想が寄せられた。



パワハラ防止のポイントを説く高橋講師

JAM甲信は、男女共同参画委員会が主催する女性組合員の集いを、今年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止から対面開催を見送りYouTubeに公開した動画を視聴する形で開催した。



女性組合員の集い 研修動画より

男女共同参画委員会の池田委員長と中島委員が講師を務めた。「働き方改革が始まりました」と題した動画の中で、「働き方改革関連法の目的である「長時間労働の解消」「非正規と正社員格差是正」「高

齢者の雇用促進」について、自社の労使協定や就業規則にどの様に反映されているのか確認することが緊張感のある労使関係につながる」と説いた。

青年女性協議会が主催する政策制度セミナーについても、同じく例年の対面開催を、動画を視聴する単組・支部ごとの研修会に切り替えた。

小林組織部長が講師を務めた「政治に参加しよう」の動画では、選挙制度や期日前投票の推奨など、政策実現活動の必要性を説明した。

どちらのセミナーも動画視聴となったが、コロナ禍においても学びの機会を創出できた。



政策制度セミナーを受講する多摩川精機労組

JAM甲信・青年女性協議会は、ハートエイド21活動の一環として、第4回フードドライブを開催した。今年度は新型コロナウイルスの感染状況を考慮して対面開催を中止し、単組支部から甲信書記局へ発送頂き・回収する方法に切り替えた。

例年、自宅や労働組合等で余剰となった、あるいは災害備蓄品の更新により不要となった食材を、フードバンク山梨・信州へ寄贈し、支援を必要としている施設、団体、個人宅へ届けてきた。今年は物価高の影響で、食材の入手も難しくなっている。そのような環境下でも単組・支部から缶詰、インスタント食品、お菓子など、全228個、総重量では昨年を上回る約59kgもの多くの食材が寄せられ、フードバンク山梨・信州へ寄贈することが出来た。

寄贈先からは「今年も多くの食材を提供下さり、感謝申し上げます。有効に活用させて頂きたい」との

お礼の言葉があった。

社会貢献につながるハートエイド21活動の取り組みについては、様々な視点から検討の上、次年度以降も進めていきたい。



お寄せ頂いた総重量59kgの善意

JAM甲信は、JAM甲信の諸活動に関する最新情報（研修会、セミナー、共済活動など）を発信していくことを目的に、LINE公式アカウントを開設した。併せて、4月11日から6月20日までを「友だち登録キャンペーン」と称して、友だち登録を頂き、単組名と氏名をお答え頂いた組合員の皆さんにもれなくQUOカードを進呈する取り組みを展開した。開設以降、友だち追加数は677名、キャンペーン登録数は563名となった。

今後は組合員の皆さまに直接お知らせしたいことやお願いなどを発信していく予定である。最新情報を入手頂き、JAM甲信の活動に対し、積極的な参加をお願いしたい。

また、LINEの友だち追加は24時間受け付けているので、多くの組合員の皆さまのアクセスをお願いしたい。

友だち追加は
QRコードから



JAM甲信
公式アカウント
リッチメニュー
イメージ



JAM甲信は、この1年余り2022年政策実現活動に取り組んできた。

6/22公示、7/10投開票にて実施された第26回参議院選挙において、JAM代表の村田きょうこ氏の必勝に向けて、単組・支部での推薦決定から始まり、応援カードの取り組み、信書作戦の取り組み、期日前投票の推奨などを単組・支部に要請し行ってきた。

投開票の結果は右記の通りであり、各単組・支部の皆さまのご支援のおかげで、見事当選を果たすことが出来た。今後は現場の代表、ものづくりの代表、女性の代表として、私たち働く者の声を国会に届けて頂くべく、奮闘頂きたい。

これまでの2022年政策実現活動に対し、ご理解とご尽力、また多大なご支援を賜り、感謝を申し上げます。

第26回参議院選挙開票結果

☆祝 当選☆

村田きょうこ 125,340票



喜びの報告をする村田きょうこ氏（JAM本部にて）